

第 3 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 108-8532
住 所 東京都港区芝浦2丁目5番1号
氏 名 あすか製薬株式会社
代表取締役社長 山口 隆 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 1 0 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	あすか製薬株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市高津区下作延5丁目36番1号		
該当する事業 者の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	医薬品製造業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		1,447 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎総務部
		所在地	神奈川県川崎市高津区下作延5丁目36番1号
	電話番号		044-812-8612
	FAX番号		044-833-9110
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度～平成27年度（報告年度 平成27年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号の通り
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号の通り
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号の通り
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.aska-pharma.co.jp/company/environment.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,475 t-CO ₂ (調) 3,471	(実) 3,187 t-CO ₂ (調) 3,183	(実) 2,718 t-CO ₂ (調) 2,715	(実) 2,739 t-CO ₂ (調) 2,735	(実) 3,372 t-CO ₂
削減率		(実) 8.3 % (調) 8.3	(実) 21.8 % (調) 21.8	(実) 21.2 % (調) 21.2	(実) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	空調延床面積		単位	t-CO ₂ /千m ²	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	233.0	213.7	182.3	213.7	226.0
削減率		8.3 %	21.8 %	8.3 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	ボイラーの燃料転換(灯油から都市ガスへ)、給湯設備を蒸気からヒートポンプ化、高効率空調機への更新、高効率反射板付き省エネ型蛍光灯器具への更新、トッランナー変圧器への更新、街灯器具(水銀灯・蛍光灯)のLED化など省エネ対策を講じた結果、最終年度目標削減率3%に対して、実排出量で8.3%削減、原単位で8.3%削減することができた。
第2年度	生産部門の業務見直しや給湯設備を蒸気からヒートポンプ化、及び送蒸ルートの見直しと不用配管撤去、高効率空調機への更新、高効率反射板付き省エネ型蛍光灯器具への更新、トッランナー変圧器への更新など省エネ対策を講じた結果、最終年度、目標削減率3%に対して、実排出量で21.8%削減、原単位で21.8%削減することができた。
第3年度	生産部門の移転やこまめに電源のON・OFF等ムダなエネルギーを使わない活動に加え、2015年度設備対策として、省エネタイプ蛍光灯器具更新、ガス給湯器及び蒸気給湯器に替えてエコキュート採用、トッランナー変圧器の更新、高効率タイプのエアコン更新を実施した結果、年間のエネルギー原油換算量は0.4%増。CO ₂ 換算量は2%減となりました。最終年度、目標削減率3%に対して、実排出量で21.2%削減、原単位で8.3%削減となりました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

(排出の量の全社目標) あすか製薬は、日本製薬団体連合会(日薬連)の目標である「2020年度のCO ₂ 排出量を2005年度排出量の23%減とする」を努力目標とし、その実現に向けた単年度目標(中期環境目標)として「全社のエネルギーの使用にかかわる原単位を前年度比1%以上削減」としている。
(排出の量の状況) 2015年度の川崎事業所は、生産部門の移転や設備の高効率化が進みました。結果、年間のエネルギー原油換算量は0.4%増。CO ₂ 換算量は2%減となりました。原油換算量の増加要因の1つは電気使用量が対前年度比2.2%増となり、電気の消費は空調設備によるものが多い為、外気温度が平均して微増で有る事と降水量が少なかった気候によるものと考えます。また、CO ₂ 排出量が減となった要因は、CO ₂ 排出が少ないエネルギーの切替え効果と考えます。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	1. ボイラー用燃料転換 ◎灯油炊きボイラーから都市ガス炊きボイラーに更新する。 2. トップランナー変圧器の採用 ◎使用経過年数の高いものから順次更新する。 3. 高効率空調機の採用 ◎省エネ効率の高いものを選定して更新する。 4. 高効率照明器具の採用 ◎LED照明器具の導入 5. 給湯設備のヒートポンプ化 ◎蒸気方式からヒートポンプ方式に変更する。
	第1年度	1. 灯油炊きボイラーから都市ガス炊きボイラーに更新した。 2. トップランナー変圧器に更新した。 3. 省エネ効率の高いものを選定して更新した。 4. LED外灯照明器具に更新した。 5. 蒸気方式からヒートポンプ方式に変更した。
	第2年度	1. 生産部門業務見直しに伴う設備停止や運用変更を実施した。 2. トップランナー変圧器に更新した。 3. 省エネ効率の高いものを選定して更新した。 4. 省エネタイプの照明器具に更新した。 5. 蒸気方式からヒートポンプ方式に変更した。
	第3年度	1. 生産部門移転に伴う設備の切り離しや運用変更をした。 2. トップランナー変圧器に更新した。 3. 省エネ効率の高いものを選定して更新した。 4. 省エネタイプの照明器具に更新した。 5. 蒸気方式からヒートポンプ方式に変更した。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現時点での利用計画は無いが、将来的には導入を考えている

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

[illegible]

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

[illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	該当する事項なし
第1年度	該当する事項なし
第2年度	該当する事項なし
第3年度	該当する事項なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	・エコキャップ推進協会への協力 ・産業廃棄物の削減及び資源化対策 ・エコペーパーソートの導入・活用 ・グリーン購入の推進
第1年度	・エコキャップ推進協会へ協力し、世界の子供にワクチンを届ける活動を継続した。 ・焼却していた機密文書を再資源化する取り組みを継続した。 ・産業廃棄物の削減及び資源化対策を積極的に進めた結果、最終処分率(最終処分量/排出量)1.31%、再資源化率64.7%となった。 ・グリーン購入に関しては必要性を十分考え、できる限り数量を削減し環境負荷低減に努めている事業者から優先的に購入を継続した。
第2年度	・エコキャップ推進協会へ協力し、世界の子供にワクチンを届ける活動を継続した。 ・焼却していた機密文書を再資源化する取り組みを継続した。 ・産業廃棄物の削減及び資源化対策を積極的に進めた結果、最終処分率(最終処分量/排出量)1.419%、再資源化率61.918%となった。 ・グリーン購入に関しては必要性を十分考え、できる限り数量を削減し環境負荷低減に努めている事業者から優先的に購入を継続した。
第3年度	・エコキャップ推進協会へ協力し、世界の子供にワクチンを届ける活動を継続した。 ・焼却していた機密文書を再資源化する取り組みを継続した。 ・産業廃棄物の削減及び資源化対策を積極的に進めた結果、最終処分率(最終処分量/排出量)1.58%、再資源化率61.7%となった。 ・グリーン購入に関しては必要性を十分考え、できる限り数量を削減し環境負荷低減に努めている事業者から優先的に購入を継続した。

様式第 2 号

(第6面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	2,891	t-CO ₂
(調)	2,858	

イ 第 3 号該当者等

(実)	t-CO ₂
(調)	

(2) 事業所等单位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎事業所	高津区下作延5丁目36番	1651	医薬品原薬製造業	2,891 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--